

プロジェクトU都市の自然調査レポート

この坂、何の坂？

大阪平野の大部分は、数万年以降に淀川や大和川から土砂によって埋め立てられてできた平らな土地です。上町台地周辺をのぞくと、大阪の街を歩いたり自転車に乗っていても、地面に起伏を感じることはほとんどありません。しかし、注意して歩いてみると、平らだと思っていた場所にも意外なほど坂があるのに気付きます。もっとも坂といっても、ほとんどがとても緩やかだったり短かったりするのですが。

例えば、河内平野（東大阪市や大東市など）を歩くと、古くからある集落はまわりの土地より少し高いことがわかります。集落の中にある神社はその中でも特に高い位置にあることが多くあります（図1）。これは周囲より高く、水はけがよく水害の被害が少ない自然堤防の上に、集落や神社が作られたためだと考えられます。

またJR大阪駅構内を歩くと、不自然なほどに段差があることに気付きます。中央コンコースから南に歩くと、数段の階段を上る必要があります（図2）。平らな方がいい駅構内になぜこんな中途半端な段差

がと思われるかもしれませんが、これは1930～50年代の地盤沈下の影響でできた段差が現在も残っているためです。

大阪平野では、このように人の影響と自然の現象が混じり合った形で坂ができているところがほとんどです。ここでは自然堤防と地盤沈下を紹介しましたが、他にも活断層、段丘、浜堤、川や池の埋め立て、人工的な盛り土などによっても平野の坂ができています。

プロジェクトUでは、このような大阪平野の坂を調べ、大阪平野のおいたちを探ろうという「平野の坂」班が活動しています。活動内容は簡単、自転車や徒歩で大阪の街中をまわり、坂を地図に書き記していくだけです。20人程で手分けして調べていますが、まだまだ大阪平野全域をカバーできていません。特に、大阪平野北部を中心に調査するメンバーが不足しています。「平野の坂」班の活動に興味のある人は、第四紀研究室・中条（nakajo@mus-nh.city.osaka.jp）までご連絡下さい。

<中条武司：博物館学芸員>



図1：周囲より高いところに建てられている三箇菅原神社（大東市）。神社が手前の道路より高く、また奥の本殿に向かって緩やかに高くなっていることがわかる。



図2：JR大阪駅中央コンコースからサウスゲートビルディングに向かうところにある階段。地盤沈下の影響で段差ができた。
